

さんむのふるさと散歩

No.3

今回は山武地区の文化財を訪ねてみましょう。

前回紹介した伊藤左千夫記念館の最寄駅・成東から上り電車に乗車します。

電車に揺られること約5分で日向駅に到着です。駅の周りの景色は、海辺の成東と比べると山林に囲まれた静かな里という雰囲気です。

武杉の人工林です。この

山武杉を原材料とした伝統工芸「上総建具」は、高級建具として欄間などに用いられる地区の特産品です。

日向駅から南東方面へ1km弱の所に山武杉の遠い祖先に当たる杉が天を突いてそびえています。

この杉は賀茂神社の御神木で文明年間頃（土御門天皇の在位）の植樹といわれ、樹齢500年を



賀茂神社の大杉

数える古木です。高さ35

m、太さ6・35m、容積70m³で市内最大の古木です。

昭和50年に町の天然記念物に指定されました。

この大杉が植樹された頃はまだ杉は少なく、自生種であるクヌギやシイなどの雑木や松が山林の優占種でした。その状況が変化してくるのは、江戸時代の九十九里浜での地引網の盛行に伴う舟の用材や江戸の大火等による家屋再建のため多量の建材需要に応えるべく、植樹が盛んになったためと言われています。

当地区の土壌や気候特性は、元来杉の生育には不適當と言われている。そんな状況下での杉の育成には困難が伴ったことと思われませんが、不

利な条件を厭わず山武杉の育成に尽力し、現在の山武林業の基礎を作った蕨真一郎の足跡を次に訪ねてみましょう。



蕨真一郎

培法の研究を重ね、挿し木苗の改良や二段林・三段林仕立ての造林法を編み出す一方、自費を投じて「埴岡農林学校」を設立して山武林業の育成に尽くしました。

また真一郎は伊藤左千夫と交流を持ち、正岡子規の門下の歌人として活動し、雑誌「阿羅木」(注)を発行するなど、地域の産業・文化の発展に多大な貢献をしたのです。旧山武町所蔵の真一郎ゆかりの品について昭和50年に町文化財に指定されています。

注 展示ギャラリーではシリーズ第1回で紹介した千葉県指定の島戸境一号墳出土の鏡の他、歴史・産業の展示を見ることが出来ます。
注 さんぶの森図書館では阿羅木の復刻版(左写真)を閲覧することができます。

日向駅から北北東へ約2・5kmの山武支所(旧山武町役場)に隣接してさんぶの森公園があります。公園内のふれあいセンター(図書館・文化ホール)を有する複合施設)の入口から図書館へ通じる廊下の両側に展示ギャラリーがあります。(注)この右側の展示コーナーに、真一郎の足跡をたどることができます。埴谷の林業家の家に生まれた真一郎は、杉の栽



「阿羅木」の復刻版